

『39年目を迎える

東海中高父母懇談会』

父母代表 加藤佳世

「一人ぼっちの父母を作らない」からはじまった東海中高父母懇談会は今年度で39年目を迎えました。これからも「私学助成の拡充を目指す」、「生徒の人間らしい成長・発展を支える」ために、楽しく活動していきたいと思



います。東海中高独自の地域懇談会では、OBやOB父母の話、先生方の話を身近に聞き、話すことができます。この地域懇談会はお友達もできる素敵で貴重な機会です。今年度はコロナの影響で「地域懇談会」がなかなかできない状況にありますが、できる限り対策をしっかりと「地域懇談会」を開催していきたいと思

います。秋には署名やオータムフェスティバル参加のご協力をお願いすることもあるかと思

『東海の教育をつないでいくために』

教員代表 杉浦一輝

東海中高父母懇談会は39年間の歴史の中で、様々な活動を通して東海の教育を豊かにし、父母の皆様が笑顔になり、生徒が健やかに成長するため環境を整えてきました。毎年28地域にて地域懇談会が旺盛に開催され、毎学期学内外にて文化講座

が熱心に関講され、また長年取り組んできた助成金活動の成果として、今年度からは720万円までの家庭の私立高校生の授業料・入学金が無償化されるという画期的な成果も得ました。



数学科、オケ部顧問

そんな中で突然訪れたのがコロナ禍です。様々な活動は制限され、人々の繋がり希薄となり、経済面も危機的な状況に陥っています。これまで培ってきたものが揺らいでしまう状況となっておりますが、だからこそ逆に、父母懇活動の意義と目的を再確認する必要性を感じます。

この度、役員父母の発案でT.F.Letter を始めることになりました。皆様が少しでも学校とのつながり、人とのつながりを感じていただければ幸いです。

第1回幹事会のご報告〈9/5〉

コロナ禍、検温・消毒・ソーシャルディスタンスと新しい生活様式の中、皆様のご理解とご協力のおかげで無事に講堂にて行う



東海 OB の会社製作のフェイスシールドをして講演する紺野先生

最初この時代だからこそ父母懇活動の大切さを再認識されたお二人の先生からのお話がありました。

まず紺野先生からは昨年度の私学助成金拡充の実績のご報告、杉浦先生からは父母懇活動の3本柱をお聞きしました。特筆すべきは昨年度、年収720万円まで無償化という画期的な出来事があったこと。署名活動は今年から国に提出する分だけでよいこと。そして今年度は、「楽しさ」より「安心感」をテーマに秋からの地域活動をしてほしいとのメッセージでした。

後半はゲストにお迎えした東海OBで、**名古屋大学医学部附属病院中央感染制御部 岡圭輔医師**による



OB 岡圭輔医師の講演

「身近な感染症(新型コロナを含む)とその対策」について、最新の情報を交えた講演を拝聴しました。

先生が最初に強くおっしゃったのは、ワクチンで防げる疾患は出来るだけ防いで欲しいということでした。そして新型コロナウイルスに関して気になっていた家庭内感染についてや、学校生活、集会時など注意点などの様々なアドバイスをいただきました。基本的な感染対策がいかに大切かを改めて教えて頂きました。

メディアの報道に踊らされることなく、冷静に対応して欲しいと締められ、現場医師の大変貴重なお話を聞くことができました。

【OB 岡圭輔医師のコメント】

コロナ禍で開催が大変な状況でしたが、スタッフの皆様の協力のお影で有意義な会となりました。講演内容が皆様に役立てばいいと考えております。また在校生の時よりも、父母懇の意義を理解できました。今後も有意義な会になることを祈念いたします。

【参加者の感想】

- ・ 活動の理解を深め、継続の大切さを知ることができました。また、関心の高い内容の講演を聞くことができ勉強になりました。
- ・ コロナ以外の感染症のお話も伺えて良かったです。帯状疱疹など身近でも罹患していますので予防接種の情報ありがたいです。耐性菌も問題になっているのは聞いていましたが、癌の死亡者を超えるようになると聞き、気軽に薬を服用するのは本当に危険だと思いました。
- ・ 助成金の話が多かった印象です。
- ・ 先生のお話から、父母懇の活動は、東海中学高校のお子様のためだけでなく、すべてのお子様の未来のためになり、大変社会的意義のある活動であることがわかりました。



高2で進歩賞、医学部へ
そして母校での講演会！

奇しくも杉浦先生

1年目の教え子

◆今後の掲載予定◆

・シリーズ「知りたい！ 隣の地域懇」

普段は知り得ない、隣の地域懇を順に紹介します。

・第1回文化講座 講師特集

妖怪といえば和服が似合うあの先生。特別講座です！

編集後記

記念すべき創刊号を発行することができました(^_^)

題字上の★がつながっているように、コロナ禍でも皆様をつなげられるような紙面を目指したいと思います。